

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

3月21日発行

最終号

文責 中野善文

旅立ちの春 それぞれの別れ ～地域の方々に支えられた日々に感謝！～

3月9日（土）に修了式、翌3月10日（日）には卒業証書授与式を挙行了いたしました。

卒業式当日の朝、前日降った雪を払おうと思って登校してみると、そこには美しく整えられた駐車場が朝日に照らされて輝いていました。朝6時に地域の方が除雪してくださったと聞き、地域の方々に支えられていることをとても嬉しく思いました。

卒業式は厳かに執り行われ、これから自分の進路を切り拓いていこうとする17名の卒業生の意志の強さが一つ一つの所作に表れ、美しく凜と輝いて見えました。中学校を巣立つ卒業生の皆さんに式辞で「道」について話をしました。その一部を紹介します。



皆さんの前には、目に見えない無数の道があります。どの道を選ぶか、おそらく正解はありません。正解かどうかは、後で自分が決めるもの。大事なものは、そこに自分の意志があるのか、未来へのビジョンがあるのか。「意志あるところに道は開ける」「踏み出せば、その一足が道になる」のです。「この道より我を生かす道なしこの道を歩く」そういう道に出合えることを願っています。

道

道と言えば、学校報でも紹介していますが、2月の大雪のため学校外階段及び郵便局向かいの歩道が利用できなくなっていました。そこで、1・2年生がクラブごとに



除雪し見事開通しました。卒業式で地域の方にお世話になったように、生徒が地域のために頑張りました。そこにできた道を見て、わたしは「栄光の道」と名付けました。これからも、地域のために活躍する山中生でいてほしいです。

白樺のように凜と美しく 岡牛のように勇ましく

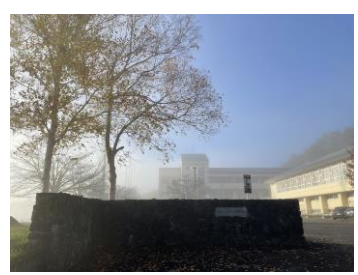
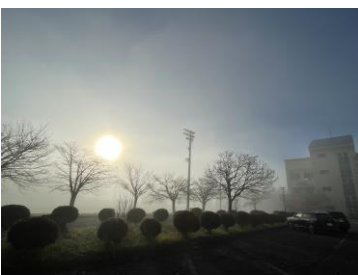
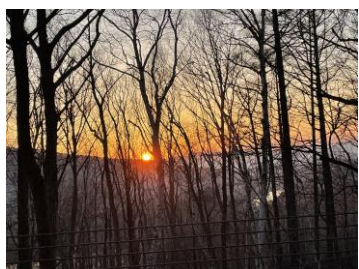
3年前に山形中学校に着任したとき、校門の白樺が凜とした立ち姿で出迎えてくれました。とてもすがすがしかったのを覚えています。また、当時の3年生を中心とした元気なエールが、わたしを含めた転入職員を大いに勇気づけてくれました。そのときに思ったのです。この学校を、山形町をこれまで以上に盛り上げ、共に発展していこうと。そして、その旗印として考えたのが「白樺のように凜と美しく、闘牛のように勇ましく」というキャッチフレーズです。

あれから3年間、素敵な生徒と職員に恵まれ、保護者ならびに地域の皆様に支えられながら学校経営を進めて参りました。学校評価は一部課題はありますが年々高まっています。3年間の集大成となった「未来ビジョン・ヤマガタ」は、生涯忘れることのできない宝物となりました。充実した3年間と皆様のご支援に感謝を申し上げます。



思わず足を
止めて撮影した

思い出の風景 in 山形 📷



毎日見慣れている山形の風景。でも、季節や時間・天候等によって様々な景色を映し出します。山形はなんと美しい町でしょう。ぜひ、山形の自然の美しさを日々感じ取っていきましょう。